



根知小だより

令和5年度1月号 令和6年1月15日発行

糸魚川市立根知小学校
〒949-0531
糸魚川市東中 5121-1
TEL 025-558-2100
Fax 025-558-2109
Mail
nechi@itoigawa.ed.jp

◇変化し続ける1年に向かって『笑う門には福来る』

新しい年、令和6年を迎えました。冬は根知の得意の季節、子どもたちや教職員と元気に3学期のスタートを切っています。今年も地域、保護者の方と協働の基、根知小学校の教育活動を進めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



さて、1月は年中行事が多く、日本の伝統や文化、それに関わる言葉や話題に触れることの多い月です。昨年も書きましたが、お年玉は、年神様から与える魂「年魂（としだま）」のことで、人々は神様を迎え入れるために家中の掃除や御供えをし、活力ある魂を授けてもらおうと願ったこと、魂は昔から丸い物と考えられており丸くついた餅を年魂としたが、時代と共に親から子、主人から使用人に金銭を与える習慣に変わったことなど、今に続く文化、風習に心を馳せることもできます。また、商売繁盛の神様「えべっさん（恵比寿）」で知られる兵庫県の西宮神社では、本殿へ早く到着した順に1番から3番までがその年の『福男』に認定される「走り参り」が毎年10日に行われますし、糸魚川でも「青海の竹のからかい」は全国的に珍しい小正月行事で、江戸時代から300年以上の歴史をもつとされ、五穀豊穡や除災招福・家内安全を願うとともに、おててこ舞同様、国指定重要無形民俗文化財に認定されています。廃れる文化、新しく生まれる文化と様々ありますが、こうした長く続く伝統文化、風習を身近に感じる



ことのできるのも新年1月のよさと言えます。

今年は根知小も大きな変化を迎える年です。『笑う門には福来る』正月などの縁起の良いにやる遊びの1つである「福笑い」が由来となっているこの言葉のように、皆が笑顔で過ごすよう努力し続けることが、周りの人を勇気づけ前向きにし、幸せや『福』を呼び込むと思います。今年も笑顔いっぱいの根知小を目指します。御支援をよろしくお願いいたします。



◇2月のおもな行事予定

1日(木)	スキー教室(全校児童1日)	18日(日)	市民スキー大会	
5日(月)	三校交流学習(糸中教諭授業)	19日(月)	家庭学習強調週間(~4日)	
6日(火)	読み聞かせ	22日(水)	PTA役員選考全体会	
8日(木)	校内スキー大会(午前練習、午後大会)	23日(木)	天皇誕生日	
9日(金)	校内スキー大会予備日※給食なし	27日(火)	全校漢字力テスト	
11日(日)	建国記念の日		第3回学校運営協議会	
14日(水)	児童集会(スキー壮行会)委員会	28日(水)	児童総会(2限)	
16日(金)	信越学童スキー大会(15日前日練習)	29日(木)	全校集会	

◇『大切にしたい心(助け合い、共感、感謝)』(1月9日始業式講話より)

おはようございます。3学期が始まりました。今年もよろしく願います。さて、校長先生も法要、お寺の行事が終わり、そろそろ新年のあいさつができるかなと思っていましたが、みなさんも体験し、連日報道されているように、石川県能登半島を中心とした大きな地震が1月1日に発生しました。3万人をこえるたくさんの方が避難生活を余儀なくされています。「おめでとうございます」は、少し控えておこうと思います。



今回の地震は2011年の3月11日に起きた大地震、東日本大震災が起きてから12年ですから、みなさんにとっては初めて経験する大きな地震災害かと思います。お正月の間、心配で眠れない、不安な気持ちで過ごした人も多いかと思います。校長先生は、まず、みんなの気持ちは大丈夫かなと心配していました。不安な気持ちは人に話すと解消され、気持ちが楽になる部分もあります。どうか、もし心配なことがあれば、先生方やお友達に話し、気持ちを楽にして3学期をスタートしてほしいと思います。また、今回の地震災害はまだまだ続いており、1週間以上が経過して行方不明の方も多く、つらい状況の中ではありますが、校長先生が今感じていること、これから3学期に、みなさんに大切にしたい気持ち、心について、この間考えたことを3つお話します。



1つ目は「助け合う心」です。校長室前の今年も作った書き初めコーナーに何を書こうかと考えたときに、最初に浮かんだ言葉です。校長先生は年末、富山の实家にいましたので地震は富山で経験しました。天井パネルがたくさん落下してくる様子が報道された富山のファボーレというお店をちょうど出たところで、車に乗っている中で「津波5m」のニュース速報が流れ、急いで家に戻りました。家に戻ると、生まれたばかりの小さな赤ちゃんをつれた妹夫婦と母親がちょうど避難しようと家を出るところでした。実家は町の真ん中なので、高い建物はどこか、避難所はどこかを調べ、歩いて移動を始めましたが、避難所の市民プラザという建物は低いし元旦で閉まっている、お城も低い、それですぐ隣の全日空ホテルという大きなホテルの中に入りました。エレベータは止まっていたのですが、ホテルのロビーには近くから同じように避難してきた人が、30人ほどおり、館内では「このホテルは耐震構造がしっかりしています、いざというときには、上の階に避難誘導します」という放送が流れました。「ああ、ここなら大丈夫」とようやく安心することができました。そのあとは数時間、そこで避難をしていましたが、嫌な顔をせずホテルのロビーを開放してくださったこと、ホテルの方が「寒くないですか、毛布は必要ありませんか」と声をかけてくださったこと、小さな助け合いが、本当にありがたく感じました。また、実家に戻ってからは近所の一人暮らしのおばあちゃんはここにいますよと遠方の家族に電話をしてあげたり、学校の先生方同士も、すぐにラインで連絡を取り合い、自分の命を守るように伝えたりしました。その中で根知小にも避難してきた若い夫婦の方がおられ、教頭先生と西田先生は、その対応もされました。こうした災害のときには、もちろん、まず自分の命を守らなければならない、しかし、そんな状況下でも、あたたかい言葉がけや優しさ、お互いのできる中で気遣い支え合うこと、「助け合う心」が大切だとつくづく感じたところです。災害に関わらず、3学期の根知小でも、「助け合う心」を大事にしていきましょう。

2つ目に感じたことは、人間には「共感する心」があること、これを大切にしなければならないことを、この休み中ずっと感じていました。ニュースで報道される、大変な状況、「お父さんが、まだ家の下にいるんです」という声を聞くと、自分のことではありませんが、自分のことのようにつらく感じます。悲しみの感情は一番伝わりやすいこともあり、「つらく感じる人はニュースから離れてください。」と放送されるときもあるくらいです。しかし、一緒になって感じ考えること、人間には相手の立場や心を想像する力、思いやる力、共感する心が備わっている、その感じる気持ち「共感する心」を大切にほしい。そんなことを今、感じています。相手の立場になって考えれば、地震のことを、あまり楽しそうに話すことはなかなかできないと思います。もちろん、話すことで楽になる部分もあるので、その話し方や内容に、十分注意してください。

最後に3つ目。それは「感謝する心」です。コロナのときもそうでしたが、当たり前が当たり前にあるということ、これは、いったいどういうことなのかを考えてみる機会にもなるのかなと思いました。今日、普通にあたたかいご飯を食べることができ、屋根のある家の温かい布団の中で眠れること、学校に行けること、勉強ができること、友達と会えること。私たちが普通に当たり前を感じていることは、当たり前ではないのかもしれない。なんなら今、心臓がどくどくと動いていることだって、自分の思うようにはならない。明日にはとまるかもしれない。



いつものように親戚と集まり、楽しいお正月の思い出ができたはずの当たり前がなくなりました。そんな現実を見ながら、普段、当たり前を感じていることに改めて「感謝する気持ちや心」が湧いてくる。冬休みに読んだ本の中にも、「人間は自然の一部でしかない」とありました。風が吹けば枝が折れるように、地震が起きれば人間は傷付きます。避けようもない、人間の力ではままならないことがある。そんな中で、当たり前のことの尊さに気づき「感謝する心」が大切だと感じているところです。

みなさんは、どんなことを感じているのでしょうか。「助け合う心」「共感する心」「感謝する心」私たちにできることは少ないかもしれませんが、校長先生は、この3つの心を大切に、感じながら、3学期を元気にスタートし、日々を過ごしてほしいと思います。



